

ツナガル！ ヒロガル！ 〈ろうきん〉運動の

輪

今回の運営委員会

小笠支店

小笠支店運営委員会(15人)

運営委員会とは……会員(組合)の代表者と(ろうきん)の営業店職員で構成される組織。(ろうきん)の運営を民主的に行なうために、理事会に向けて、各会員の率直な意見を発信し、理事会で決定された方針や事業計画を各営業店の立場から、より具体化して地域会員・勤労者に展開しています。

このコーナーでは、独自の活動を展開する運営委員会の様子を紹介していきます。

お話をうかがった
運営委員さん

●運営委員長
櫻井 昇さん
(スズキ労働組合大須賀支部)

●副運営委員長
沖宗伸一さん
(全矢崎労働組合大浜支部)

●副運営委員長
杉浦満文さん
(キヤトラ労働組合)

！ 15年目の運営委員会活動

小笠支店は1996年にオープンし、今年で15年を迎えます。小笠支店運営委員会の歴史は浅いですが、とても充実した活動を展開しています。それは、運営委員会を「普及委員会」と「広報委員会」とに分けて、それぞれが役割をもって〈ろうきん〉のメリットを伝える工夫をしているからです。



「普及委員会」の目的は、「いかに〈ろうきん〉の商品・サービスを各会員の組合員とその家族に伝えること」です。

例えば若い世代に、「自主福祉運動」といっても「ピン」とこない方が多いのが現状です。そういった世代を中心に〈ろうきん〉を知らせるには、何かの「きっかけ」が必要だと考えています。そのき

かけづくりをするのが、私たちの基本的な役割です。

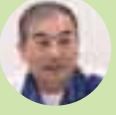


「広報委員会」の目的は、「会員に対して運営委員会独自で教宣物を作成し、情報として発信すること」です。独自チラシは各会員でも積極的に発行されていますが、運営委員会としても、何か各会員のバックアップをすることが必要だと考えており、現在は手書きの「カベ新聞」を作成することが基本的な柱となっています。

！ 「普及委員会」の具体的な活動！



昨年度は「ぬりえコンクール」を実施しました。そのぬりえ冊子に〈ろうきん〉の情報を含ませて掲載し、「家庭に〈ろうきん〉の情報を持って帰ってもらおう」活動をしました。このぬりえ作品を、支店のロビーに展示したことで、応募いただいた子どもとその家族が、作品を見るために来店する「きっかけ」にもなりました。また、地方新聞にもこの作品展示が取り上げられましたよ！



今年度は「クロスワードに答えてオリジナルクリアファイルを作ろう！」キャンペーンを企画中です。クロスワードを考えるのは結構たいへんでしたが、組合員が楽しみながらパズ

！ 「広報委員会」の具体的な活動！



「カベ新聞」の名前は「高天神」。支店近くにあったお城の名前です。新聞に掲載する内容は、〈ろうきん〉のこのみだけでなく、地域のおいしいお店やレジャー施設の紹介を入れるなど、運営委員が協力して、和やかな雰囲気の中で作成されます。この新聞は、ATMコーナーへの掲示と、チラシサイズにして会員配布も行なっています。



「高天神」は4年ほど前に、磐田支店運営委員会作成の力へ新聞を参考にして作成することからスタートしました。最近では〈ろうきん〉教宣コンクールで優秀賞を取るなど、評価も高いカベ新聞に成長し、広報委員会メンバーの熱い思いが込められています。

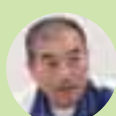
！ 若者の会

「どんぐりの会」



若い世代に〈ろうきん〉を伝え、その世代が〈ろうきん〉運動を進化させることが、ど

！ 〈ろうきん〉の成り立ちって？



運営委員も短期間で交代する方、また若い方も多くなりました。そういった中で、〈ろうきん〉の商品・サービスをPRすることも重要ですが、運営委員会として、まず相互扶助から生まれた〈ろうきん〉の成り立ちをしっかりと教えていかなくてはならないと感じています。そして運営委員は、各組織で「自ら汗を流して稼いだお金を大事にする自覚を持ってもらう教育」や「多重債務などのマネートラブルに巻き込まれないための教育」などの世話役活動を実践し、〈ろうきん〉の輪を広げていくことができればと考えます。



の運営委員会で課題となっていると思います。そこで各運営委員会からメンバーを選抜して発定させたのが、「どんぐりの会」でした。発定当初は、自主的な運営ができるのか不安もありましたが、今年度は、独自で「震災に対するセミナー」の企画、運営さらには「カベ新聞」へのチャレンジ、チラシ作りの勉強会など、その積極的な活動には運営委員会も圧倒される勢いなんですよ！

このコーナーでは、運営委員会の活動を紹介します。「取材に来て欲しい」「ミーツに載りたい」という運営委員会は、ぜひミーツ編集室へご連絡ください。

